

* 基線尺試験室の写真発見 (菱形基線北端点-25m 比較基線の建物)

アーカイブ室新聞 136号に1932年当時の東京天文台の航空写真(写真1)と1948年の米軍によって撮られた東京天文台の航空写真を掲載した。これらの写真には東京天文台構内の国土地理院管轄の菱形基線が写っており、またその北端点と東端点との延長25m地点の比較基線間の建物の写真が写っている(写真1の矢印の先の細長い建物)。



写真1 菱形基線北端点-附属点間の建物の写っている航空写真

この基線尺について天文月報第21巻第7号(昭和3年1928年)に陸地測量師梅本豊吉氏の記事があり、この基線が設置されたのは大正初年で、相模野基線場に於ける基線尺比較室を全部東京天文台構内に移し、1927年末に新たに基線尺試験室を建築したとある。この細長い建物は基線尺の試験室で、「うなぎの寝床然たる建築物(間口3m奥行き40m)は足を一度東京天文台に入れらるる諸賢の眼を牽からずには置かないでしょう」と書かれている。この建物内部には5mおきに顕微鏡台があって、5m測錐で接続的に両端点間を測定する装置になっていた。筆者はこの建物はおろか、その写真も見ることがない。どこかに無いかと捜索しようと思っていたところ、2009年2月17日~26日の間に国土地理院がこの菱形基線を使った「変動地形調査作業」が行われることになった。2009年2月18日、調査のための作業を始めたので、様子を見に行き、基準点の写真を撮らせていただいた際、作業をしている国土地理院の方に、菱形基線北端点から東からの延長線上に長い建物が古い

航空写真に写っているのだが、何か心当たりはありませんかと尋ねると、即座にああ、建物がありましたよ、その写真もありますよ、今、車の中にありますとファイルを持って来て写真を見せてくれた。すぐコピーを取らせていただけないかとお願いして 6 枚の写真のコピーを作成させていただいた（写真 2～8：国土地理院提供）。



写真 2 菱形基線基線尺試験室の建物

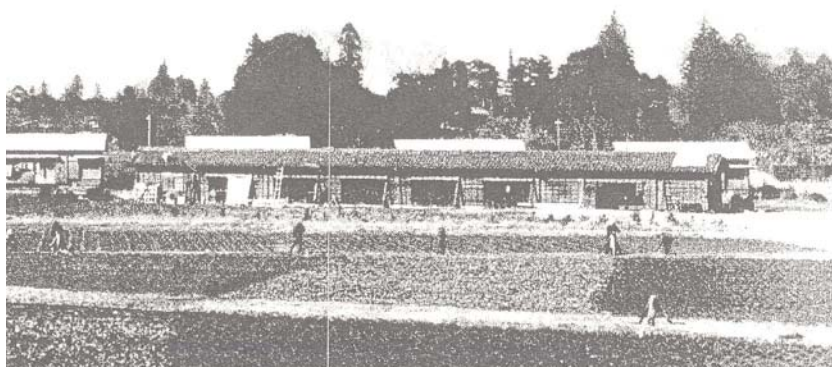


写真 3 菱形基線基線尺試験室の建物を南から見たもの

間口 3 m、奥行き 40m とは大きな建物である。いくら東京天文台のものではないとはいえ、その写真すら存在が分からなかったのは不思議千万、驚くほかはない。天文月報記事にもあるように、東京天文台に足を踏み入れたものの眼を引かないわけがない。写真 3 にはその背景に建てられたばかりの 31 号～34 号の官舎群が写っている。



写真4 菱形基線基線尺試験室の建物の内部

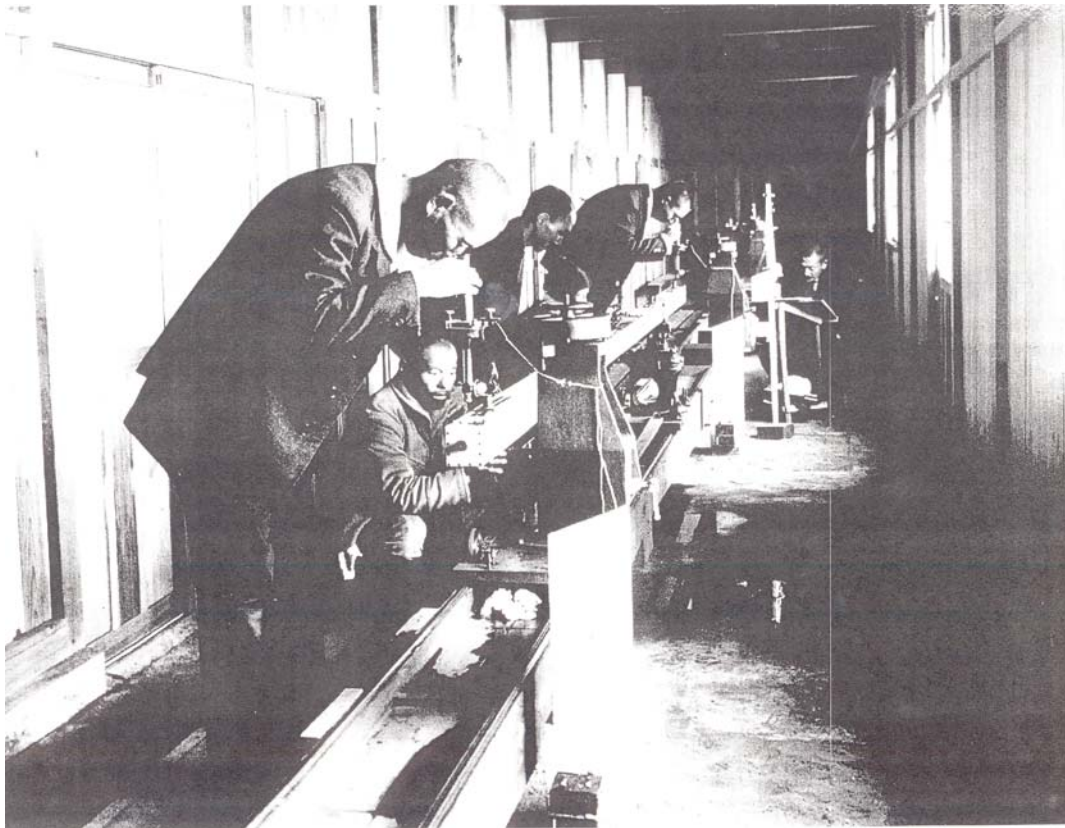


写真5 菱形基線基線尺試験室の建物内部での測定の様子



写真6 菱形基線東端点－南端点間の屋外測定の様子



写真7 菱形基線東端点－北端点間の屋外測定の様子

写真7には軍服姿の人もおり、またゲートル姿の人もいる。写真7の背景は官舎11号～13号である。また、写真8には官舎31号から38号、40号が写っている。官舎が建てられた当時は垣根も、生垣もなかった様子が分かる。これらの官舎が建てられたのは昭和24年～昭和26年頃と聞いている。このような写真を見るのも初めてであり、感慨深いものがある。筆者は38号官舎に昭和48年から20年間住んだ。その頃は垣根の「さわら」の手入れが大変であった。官舎に住んでいた面々はこの写真は懐かしいのではないかと思う。このように東京天文台構内は開けた広々とした所であり、武蔵野の森などではなかった。



写真8 建てられたばかりの官舎群が見える